

## インターバンクの声（2017年7月21日）

昨夜の海外市場での円相場は、7月に入ってからドル最安値を更新した。市場の注目がECB理事会とそのあとのドラギ総裁の記者会見に集まっていたので、特段変わった材料が出て来なければ、112円台前半で小動きが続くと思われていた。

ところが、ニューヨーク市場が始まって間もなく、昨年米大統領選挙でのトランプ陣営とロシア政府との関係について、モラー特別検察官が捜査をトランプ大統領と関係者のビジネスまで広げているとの報道が伝わった。112円台前半で取引されていた円相場は、この報道で111円49銭までドル売りが進んでしまった。

確かに7月に限ればドルが最安値を付けたことになるが、新年度4月以降で見れば、108円台前半のドル最安値と114円台中盤のドル最高値のちょうど真ん中付近だ。次に何が円相場を動かす決め手になるのか、なかなか先行きの判断が難しい。やはり今は、ユーロ相場にエネルギーを注ぐのが得策かも知れない。

予想通り、昨夜はドラギ総裁がテーパリングの協議を今秋に開始すると表明してくれた。ユーロは理事会前の水準1.14ドル台後半から150ポイント超上昇して1.16ドル台中盤まで買われ、昨年の高値1.16ドル台前半を上抜いた。ストップを置きながら、続騰を狙ってのロングか、反落を狙ってのショートを選択だが、ここは週末の調整を見込んでショートで攻めてみたい。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。